



2月23日 市民公開講座
「大阪がんフォーラム〜がん患者を支える」
パネルディスカッションの様子

和

第28号 (平成25年 春号)



編集：大阪市立総合医療センター 広報小委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)
<http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる暖かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

～ 掲載内容 ～

- コメディカルのお仕事紹介
「臨床検査技師」
- 疾患解説シリーズ「手指のしびれ」
- がんの診療について「喉頭がん」
「当センターが取り扱うがんの種類」
- 「大阪市立総合医療センターが
小児がん拠点病院に指定されました」
- 市民医学講座のご案内

■ コメディカルのお仕事紹介「臨床検査技師」

みなさん、病院や健康診断で血液や尿検査を受けたり、心電図や超音波検査を受けたりしたことがあると思います。患者さんから採取した血液、尿、痰、便、細胞を分析したり、患者さんの体から直接生体情報を調べることを臨床検査と言います。当院では臨床検査技師が検体検査、微生物検査、輸血検査、病理検査、生理機能検査など幅広く検査を行っています。

今回は、患者さんの体から発する信号を波形や画像に変換する生理機能検査を紹介します。生理機能検査では、心電図、呼吸機能、脳波、筋電図、超音波、脈波ポリグラフ（動脈硬化検査）、24時間ホルター心電図、負荷心電図、トレッドミル、終夜動脈血酸素飽和度、新生児 ABR（聴覚スクリーニング検査）、平衡機能検査などを行い、また不整脈治療を行うカテーテルアブレーションにも協力しています。患者さんから直接情報を得ることで病気の診断や治療方針の決定、治療効果の判定、早期発見などができ、多くの場面で活用されています。そして、生体情報は多種多様となり、生理機能検査に求められる要望も多くなって来ています。私たち臨床検査技師も日々カンファレンス（症例検討会）などを通じて技術や知識の習得に努め、さらなる医療の質の向上に寄与したいと励んでいます。



カンファレンス風景



超音波検査室

■ 疾患解説シリーズ

手指のしびれ

大阪市立総合医療センター 整形外科部長 香月 憲一

手の指のしびれを訴えて整形外科の外来に来られる患者さんは結構大勢おられますが、その原因は単純ではなく、原因によっては受診科目が異なる場合もしばしばあります。ここでは手指のしびれを引き起こす病気について解説します。

しびれるという感覚が引き起こされるのは、多くの場合神経に何らかの原因で障害が生じていると考えられます。その障害部位が脳にあるのか、脊髄にあるのか、末梢神経にあるのかによって病態も様々ですし、当然治療法も異なってきます。一般に、原因が脳や脊髄といった中枢神経にある場合は、末梢神経に原因がある場合よりもしびれの範囲が広がる傾向があります。脳に原因がある場合、典型的には片麻痺といって片側の上下肢や顔面に症状が及びます。また、脊髄に原因がある場合には、対麻痺といって両側の upper limb に症状が出ます。最も鑑別が困難なのは片側の upper limb に限局したしびれが出現した場合で、**手根管症候群**や**肘部管症候群**といった神経障害と**頸椎症**との鑑別が必要になります。

1. **頸椎症**：主に首の骨の加齢現象によって生じた**骨棘**や**椎間板ヘルニア**などにより、上に向かう末梢神経が圧迫されて症状が生じます（図1）。圧迫部位によってしびれの範囲が異なります。**骨棘**はレントゲン検査やCT検査で、**椎間板ヘルニア**はMRI検査で診断が可能です。多くは投薬や頸椎の牽引などの治療の適応ですが、改善しない場合や運動麻痺を伴う例では手術の適応となることもあります。
2. **手根管症候群**：正中神経という神経が、手根管という手首に存在する狭いトンネルの中でしめつけられて、小指以外の手指のしびれが生じます。

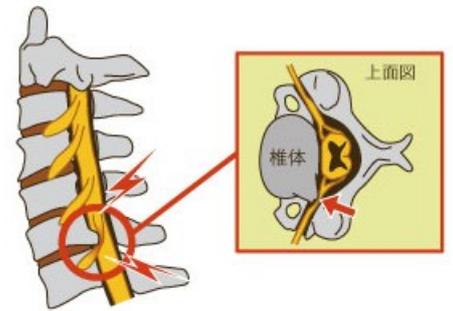


図1 頸椎症性神経根症

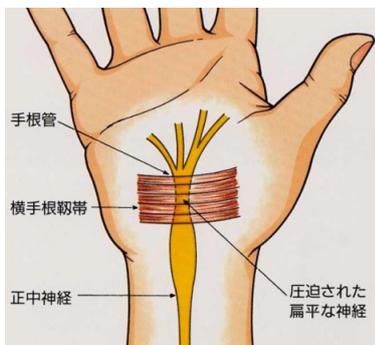


図2 手根管症候群

進行すると**母指球**という親指の付け根の手のひらの部分の筋肉が麻痺して細かい動作がしづらくなります（図2）。中年以降の女性に生じやすいですが、手首を骨折した患者さんや妊娠中の女性などにも生じることがあります。治療は、初期の段階では手首の安静と投薬あるいは手根管内のステロイド剤注射といった治療を行います。進行例や治療効果がない

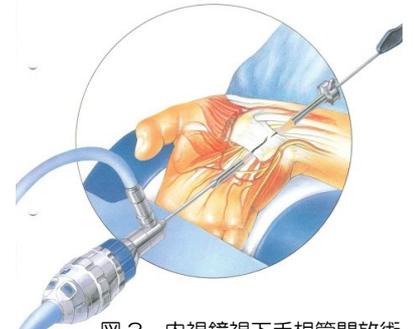
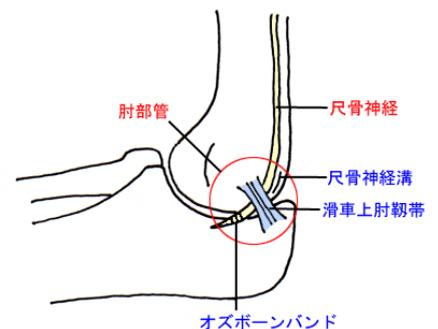


図3 内視鏡視下手根管開放術

症例では**手根管開放術**という手術を行うことがあります。手術は最近では内視鏡を用いて小さな傷で行う方法も発達しています（図3）。

3. **肘部管症候群**：尺骨神経という神経が、肘部管という肘内側に存在する狭いトンネルの中でしめつけられて（図4）、薬指と小指にしびれが生じます。進行すると薬指と小指を曲げる筋肉の力が弱くなって握力が低下したり、手の細かい筋肉が麻痺するため細かい動作がしづらくなったりします。肘関節の変形性関節症に伴うものや特発性のものなどがあります。治療方法は症状が軽微のものでは投薬や肘関節を伸展位に保つなどの治療法がありますが、運動麻痺が存在する例や治療効果がない症例に手術が行われることがあります。



尺骨神経は、**オズバーンバンド**、**尺骨神経溝**、**滑車上肘靭帯**など的一部分によって絞めつけられ**肘部管症候群**をおこします。

図4 肘部管症候群

■ がんの診療について

喉頭がん

大阪市立総合医療センター 耳鼻咽喉科部長 愛場 庸雅

◆喉頭がんとは

喉頭はいわゆる「のどぼとけ」に位置しており、食べ物の通り道と空気の通り道の仕分けをしている部分です。喉頭には、呼吸をする、物のみこむ（嚥下）、声を出す（発声）という3つの働きがあります。喉頭は、声帯のある部分（声門）と、その上（声門上）、その下（声門下）の三つの部分に分けられますが、がんの発生割合はそれぞれ、60～65%、30～35%、1～2%です。発症年齢は50歳代から80歳代に多く、また、男性が女性の10倍以上です。喫煙および飲酒は、喉頭がんの危険因子です。がんの性質はほとんどが扁平上皮がん、放射線や化学療法が比較的効きやすいタイプです。

◆喉頭がんの症状

症状はがんの発生部位により異なります。声門がんでは、^{させい} 嚙声（声がれ）です。1ヵ月以上嚙声が続く場合は要注意です。がんが進行すると、声門が狭くなって息苦しいなどの症状が現れてきます。痰に血液が混じることもあります。声門上がんの症状は、食物を飲み込んだときの痛み、いがらっぽさ、異物感などです。リンパ節転移から初めて見つかることもあります。声門下がんは、進行するまで無症状のことが多く、発見が遅れがちです。

◆診断とステージ

喉頭がんの診断は、耳鼻咽喉科で、鼻から細いファイバースコープを挿入して観察する視診と、病変の一部を採取して行われる組織診断により確定されます。組織診断は咽頭、喉頭を局所麻酔した後、ファイバースコープを用いて病変の一部を採取します（時に全身麻酔下で行われることもあります）。これを病理医が顕微鏡で見て、がんかどうかの診断を行います。

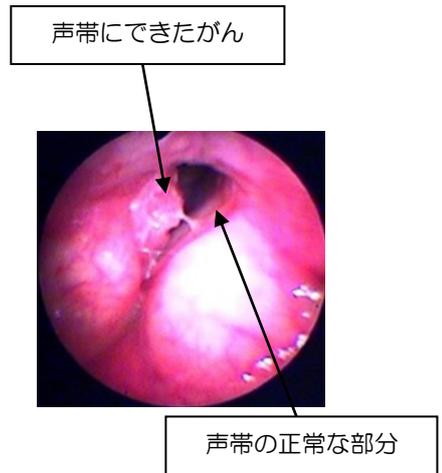
がんの進展範囲を把握するためには、視診による観察の他に、CTやMRIといった画像診断が必要です。また、リンパ節や肺をはじめとする全身への転移の検索には、PET検査が有用です。これらの検査により、進展度のステージ分けをします。Ⅰ期、Ⅱ期は、がんが喉頭内にとどまっている比較的早期の状態、Ⅲ期、Ⅳ期は、がんが大きく、転移もある進行がんの状態です。

◆治療と生存率

治療は、放射線療法と手術療法が2本の柱となります。また、抗がん剤による化学療法も進歩しましたので、併用治療も行われています。放射線療法は、音声機能が保てますが、治療に6～7週間ほどかかります。

手術療法は、早期であれば、レーザーによる声帯だけの切除、喉頭の一部だけを切除する部分切除術などが行われますが、進行がんの場合は喉頭をすべて摘出する喉頭全摘出術などが必要になります。喉頭全摘出術では、音声機能が全く失われますが、食道発声や電気喉頭の使用により、音声を獲得することができます。頸部リンパ節転移のある場合は、耳下部から鎖骨までの範囲のリンパ組織を含んだ部分を切除する頸部郭清術けいぶかくせいじゆつも行われます。

がんの発生部位により治療成績は多少異なりますが、Ⅰ期では放射線療法で90%以上治ります。Ⅰ～Ⅳ期全体では、65～70%の5年生存率といわれています。



当センターが取り扱うがんの種類

肺がん・縦隔腫瘍／乳がん・乳腺腫瘍／胃がん・胃腫瘍／大腸がん・大腸腫瘍／食道がん／肝がん・肝腫瘍／胆嚢がん・胆管がん／
 膵がん・膵腫瘍／前立腺がん／膀胱がん／腎がん／尿路がん／精巣がん／血液腫瘍（白血病、リンパ腫など）／子宮がん／
 卵巣がん／脳腫瘍／骨軟部腫瘍／頭頸部腫瘍／小児がん／皮膚腫瘍／原発不明がん／性腺外胚細胞腫瘍／眼腫瘍

大阪市立総合医療センターが 『小児がん拠点病院』に指定されました

当センターは、平成25年2月8日付けで厚生労働大臣から「小児がん拠点病院」の指定を受けました。

「小児がん拠点病院」の指定については、平成24年6月に閣議決定された「がん対策推進基本計画」に基づくもので、拠点病院に小児がんの患者さんを集約し、質の高い医療を提供することで、患者さんとその家族が安心して治療に専念し、支援を受けられることを目指すものです。

今回の選定にあたり、全国から37病院が応募し、最終的に15病院が指定を受けています。近畿ブロックでは次の5病院です。

- ・大阪市立総合医療センター（大阪府大阪市）
- ・大阪府立母子保健総合医療センター（大阪府和泉市）
- ・京都大学医学部附属病院（京都府京都市）
- ・京都府立医科大学附属病院（京都府京都市）
- ・兵庫県立こども病院（兵庫県神戸市）



ユニバーサル・ワンダー・ルーム
(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、フランスベッドからの寄付)

当センターは、平成17年1月から「地域がん診療連携拠点病院」の指定医療機関であり、医師をはじめとする多職種によるチーム医療、療養環境の整備、地域医療機関との連携などを推進してきていますが、今回の「小児がん拠点病院」の指定により、子どもから大人まで幅広い年齢層に対して、がん診療を益々充実していきたいと思っています。

★緩和ケア病棟に小児専用緩和ケア病室を設置

末期がんなど難病の子どもたちが、少しでも楽しい雰囲気の中で残された時間を過ごせるようにと、米映画テーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）」の世界を再現した子ども専用の緩和ケア病室です。

★キッズルーム（近日オープン）

お子さんの外来診療時や見舞い・付き添い時に、ご兄弟姉妹を一時的にお預かりする施設を開設する予定です。

★ファミリールーム

小児がんなどの難病治療のため、遠隔地の自宅を離れて当センターに入院する子どもたちとご家族の経済的・精神的負担を軽減することを目的に当センター隣接ビルにファミリールームを設置しています。また、同様の大阪市内の民間施設もご案内しています。

★こどもサポートチーム（小児緩和ケアチーム）

小児緩和ケア医、児童青年精神科医、緩和ケア認定看護師、緩和薬物療法認定薬剤師、がん専門看護師、臨床心理士、ホスピタルプレイスペシャリスト、在宅支援担当看護師からなる小児緩和ケア専門チームが小児がん患者さんとその家族をサポートします。その他にも、心理相談、小児血液腫瘍科専属心理士による個別カウンセリング、患者会の紹介、入院患者者家族の茶話会の開催などの患者さんの家族支援も行っています。



ファミリールーム



こどもサポートチームミーティングの様子

次回の市民医学講座は

大阪市立総合医療センター
小児医療センター講演会

と き 6月15日（土）午後1時30分
と ころ 総合医療センター さくらホール